

インクルーシブの窓



富山県教育委員会県立学校課特別支援教育班

スタディ・メイトさん、活躍中です！



県内の小・中学校には、今年度、501人のスタディ・メイト（特別支援教育支援員）が配置されています。平成19年度から市町村によって配置が始まり、当時は105名でしたので、現在は約5倍に増えていることとなります。通常の学級で特別な支援を必要とする児童生徒が増える中、スタディ・メイトの果たす役割は今後、より一層重要になるものと考えられます。

スタディ・メイト養成講座は平成18年度から行われており、今年度も、5月から8月にかけて、専門的な立場の方々の講義や特別支援学校での研修、グループワーク等からなる全7回を終了しました。その中から、第5回のオンライン研修会後の声をいくつか紹介します。

受講者アンケートより（※すでに、小・中学校で活躍中の方も含む）

- ・ 困り感を抱えている子供たちとのかわりには、信頼関係の構築が一番大切であることを学びました。
- ・ 特別な配慮を必要とする子供たちに寄り添うこと、成功できた、うまくできたという体験ができるように支援していこうと思いました。
- ・ 配慮の必要な子供たちは「失敗経験を糧にすることはハードルが高い」というお話を聞いて、ほめられるような機会をたくさん作ってあげることに力を注ごうと思えました。
- ・ グループワークでは、他校のスタディ・メイトさんと活発に意見交換ができました。子供たちは、信頼できる大人との関係を基盤に成長していくことを確認しました。
- ・ 支援が必要な子の味方になって、思いに寄り添ってあげたいなと改めて思いました。
- ・ 困っている子供の側において、信頼できる大人になれるよう見守っていきたいです。
- ・ 中学生になると、自分にサポーター（スタディ・メイト）が付かれると恥ずかしい気持ちになるのではと思っていましたが、安心して頼られるとこちらもうれしくなります。
- ・ 研修終了後も、幅広い方々との意見交換の場があればいいと思いました。

スタディ・メイトの皆さんの、“子供に寄り添った支援がしたい”という温かく、意欲的な声がたくさん聞かれました。さらに、“子供と先生方とのパイプ役になりたい”“先生方と情報交換をしたい”などの願いも、すでに活躍中のスタディ・メイトさんから多く出されています。

そのようなスタディ・メイトさんを、改めて校内の支援体制の大切な一員として迎え、チーム学校を合言葉に2学期をスタートしましょう。

